

一わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘いー
ミュージアム都留からのお知らせ

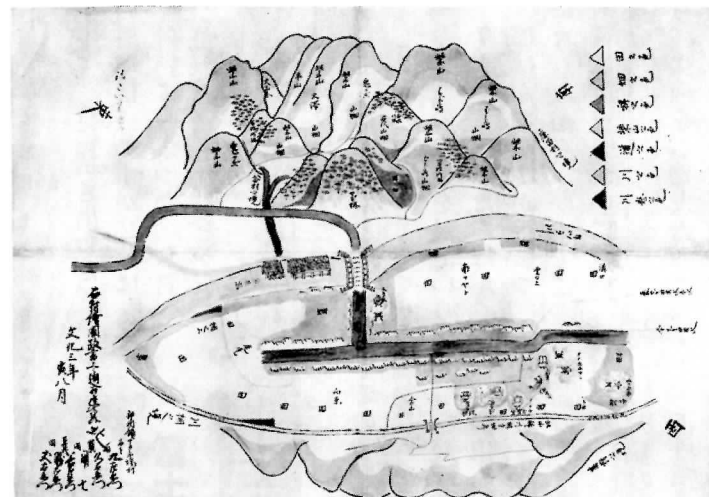
『郡内村絵図展 ー甲州街道から富士みちへー』

「郡内村絵図」とは、江戸時代の地誌『甲斐国志』の編さん資料として、郡内地方の村々から資料として提出された絵地図のことです。郡内地域の編集を担当した森嶋弥十郎(其進)の家に代々伝えられ、昭和51年に絵図67点などが「甲斐国志編さん資料」として市へ寄贈されました。

これらの絵図からは、江戸時代の家並や寺社、道、川、用水などの様子、それに田畑や山の利用の有様など、その当時の人々の暮らしと営みを読み取ることができます。そうした意味でこれらの村絵図は、郡内全体の歴史資料であり、貴重な文化遺産であると言えます。

今回の企画展では「郡内村絵図」に含まれる村絵図のなかから、甲州街道(現在の国道20号)と富士山へ向かう街道「富士みち」の周辺の村々について描かれたものを展示します。そして、それら街道の江戸時代の様子を紹介するとともに、現在の姿との比較などを行っていききたいと思います。

会期	3月24日(火)～5月24日(日)
時間	午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料	一般 300円(210円) 高・大学生 200円(140円) 小・中学生 100円(70円) ※()内は20名以上の団体料金です。
休館日	毎週月曜日、第3火曜日、祝日の翌日



十日市場村絵図※

※「富士みち」

大月で甲州街道から分かれて、桂川沿いに南下し、谷村を経て上吉田にいたる路のことです。絹織物を江戸へ運ぶ道として、また富士山に向かう登山道として利用されてきました。

※「十日市場村絵図」

文化3年(1806年)『甲斐国志』編さんにあって十日市場村から提出された絵図で、桂川(上)と柄杓流川(下)にはさまれた村の中心部と、それを囲む山々が描かれています。絵図の中央部を、谷村(左側)から途中で桂川を渡って夏狩村(右側)へ抜けるように描かれているのが「富士みち」ですが、当時は桂川を渡る橋が田原の滝より上流にあり、今とは道筋が違っていることがわかります。

増田誠美術館

増田誠画伯を偲ぶ展

増田誠が亡くなられて、20年の月日が流れました。今回の展示会は、画伯が生涯で描いた作品を2期に分けて展示します。第1期では、渡仏直後から1970年代の作品を中心に展示します。

ぜひ一度、美術館に足を運んではいかがでしょうか。

会期 3月7日(土)～6月7日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)

休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日



《作品の紹介》

バルビゾン近くの片田舎の街角。歴史の流れからひっそりと身を寄せて暮す人々。自転車を押す老人とともに静かに時が流れてゆく町のすがたを描いた作品です。



「パリ郊外」(1960年代)

勝山城のなぞに迫る

勝山城での発掘調査も最後の月を迎えました。これまで3年間の調査で、勝山城の謎は徐々にではありますが、解明されてきました。平成18年から実施した発掘調査で、未確認であった將軍家御用のお茶を納めたお茶壺蔵と考えられる建物跡や本丸の西側斜面で近世初頭に築かれたと考えられる大規模な石垣が確認されています。また、勝山城は従来、文禄3年(1594年)に築城されたお城だと伝えられてきましたが、それ以前の小山田氏や後北条氏の時代と考えられる堀が確認されています。このように今までの勝山城の年代観や常識を覆すような調査成果が得られています。それと同時に、勝山城の正面は西と南のどちらなのかという問題など、新たな課題も生まれました。

これまでの成果や課題については、来年度刊行の報告書内で取り上げ、まとめていきます。